

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（文学）	氏名	李 愛華
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 漢語語彙のメタファーに関する研究—中国語との対照を通して—			
論文審査担当者			
主査	教授	佐藤	利行
審査委員	教授	高永	茂
審査委員	教授	今田	良信
審査委員	関西学院大学 教授	于 康	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、漢語語彙のメタファーの特徴について日本語と中国語との対照研究の視点から考察したものである。従来、メタファーによる意味拡張の観点からの研究では、主として色彩語・イディオム・五感の形容詞などといった個別語の対照研究が中心であり、語彙を意味によって分類し、体系的に日中メタファー表現の対照研究を行うものはあまり見られなかった。本論文では、「朝日新聞」と「人民日報」の社説から漢語語彙のメタファーの用例を取り上げ、それに丁寧に考察を加え、漢語語彙のメタファーの特徴を解明しようとした新しい視点からの研究である。</p> <p>本論文は、序章、本論 第一章～第七章、および終章からなる全九章によって構成される。</p> <p>序章では、研究の目的・意義を述べる。</p> <p>第一章「先行研究の概観」では、メタファーに関して伝統的なメタファー理論、認知言語学におけるメタファー理論、メタファーの形式、メタファーの同定などについて先行研究を概観してまとめている。</p> <p>第二章「データの収集と分析方法」では、次章からの個別的視点からの考察に入る前に日中両言語における意味分類の分布傾向、語構成の特色、意味拡張の傾向などを説明する。「朝日新聞」「人民日報」から漢語語彙のメタファーの用例を抽出し、「分類語彙表」「現代漢語分類詞典」の分類項目によって意味分類をした上で、本論文におけるメタファーの使用を量的に概観している。</p> <p>第三章「モト領域を固定した事例研究(1)—人間にまつわる漢語語彙—」では、身体部位語彙をモト領域とするメタファーの用例を取り出して分析を加えている。身体部位は認知しやすいものであるために、身体部位を表す語彙は思考、行為など多様な意味に拡張される傾向があることが示されている。</p> <p>第四章「モト領域を固定した事例研究(2)—物質の状態変化を表す漢語語彙—」では、本来は物質の状態変化を表す「蒸発」「沸騰」「昇華」「結晶」といった語彙に焦点をあてて、それぞれの語彙の意味拡張にいかなる認知プロセスが関わっているのかということについて検証している。</p> <p>第五章「モト領域を固定した事例研究(3)—住居を表す漢語語彙—」では、住居の主構造である「土台」「壁」「大黒柱」、副構造としての「天井」「敷居」「玄関」といった語彙を取り上げ、メタファーの理論に基づき新たな意味に拡張される事例について考察している。</p> <p>第六章「サキ領域を固定した事例研究—手段・方法を表す表現—」では、第三章から第五章までのモト領域を固定した事例とは逆に、サキ領域を固定したメタファーの研究事例として「手段」「方法」という抽象概念が日本語話者と中国語話者によって、どのように意味づけられ認知されているのかを考察している。</p>			

第七章「モト領域とサキ領域を固定した事例研究—ペアの形で構成される表現—」では、「自然現象」の領域に由来する語と「感情」の領域に由来する語がともに表現される慣習的メタファー表現を取り上げて考察している。

終章では、本研究のまとめと今後の課題について述べている。

本論文は、資料によって得られた豊富な漢語語彙を分類・整理するといった基礎作業の上に、日本語と中国語とは異なる言語であるにも関わらず、漢語語彙レベルにおいてはメタファーについて多くの共通点が見られることを明らかにしている。共通性と文化相対性の視座から、日本語と中国語における漢語語彙のメタファーの実態を総合的に解明しようとした研究として高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。